

法

8

政
畧
學
大
意

301004-000-8

法-8

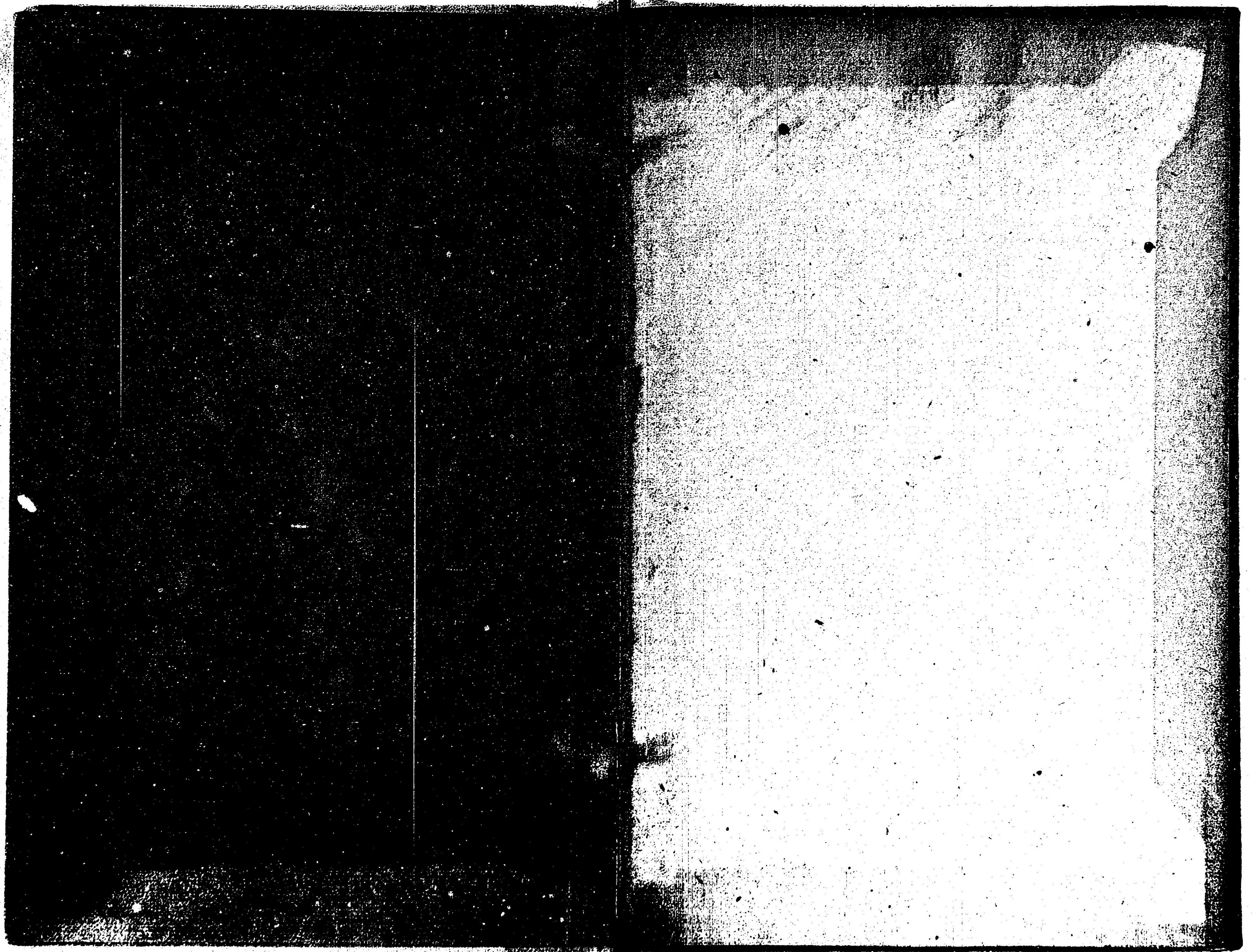
政畧學大意 附 新法實施論

横田國臣

M25.5

BAA-0006

REPRINTED



法一

№ 80/111



本書ハ目下新法實施ノ延期説ト斷行説ト突然兩議
題タラントスルニ際シ時情切迫徒ニ看過ス可カ
感想ヨリシテ匆卒之ヲ起草シ單ニ新法實施論ノ政略問題

テ政略學ノ原理ヲ摘出スルニ過キス固ヨリ
スルモノナレハ其學序的ノ文體ニ非サルヲ

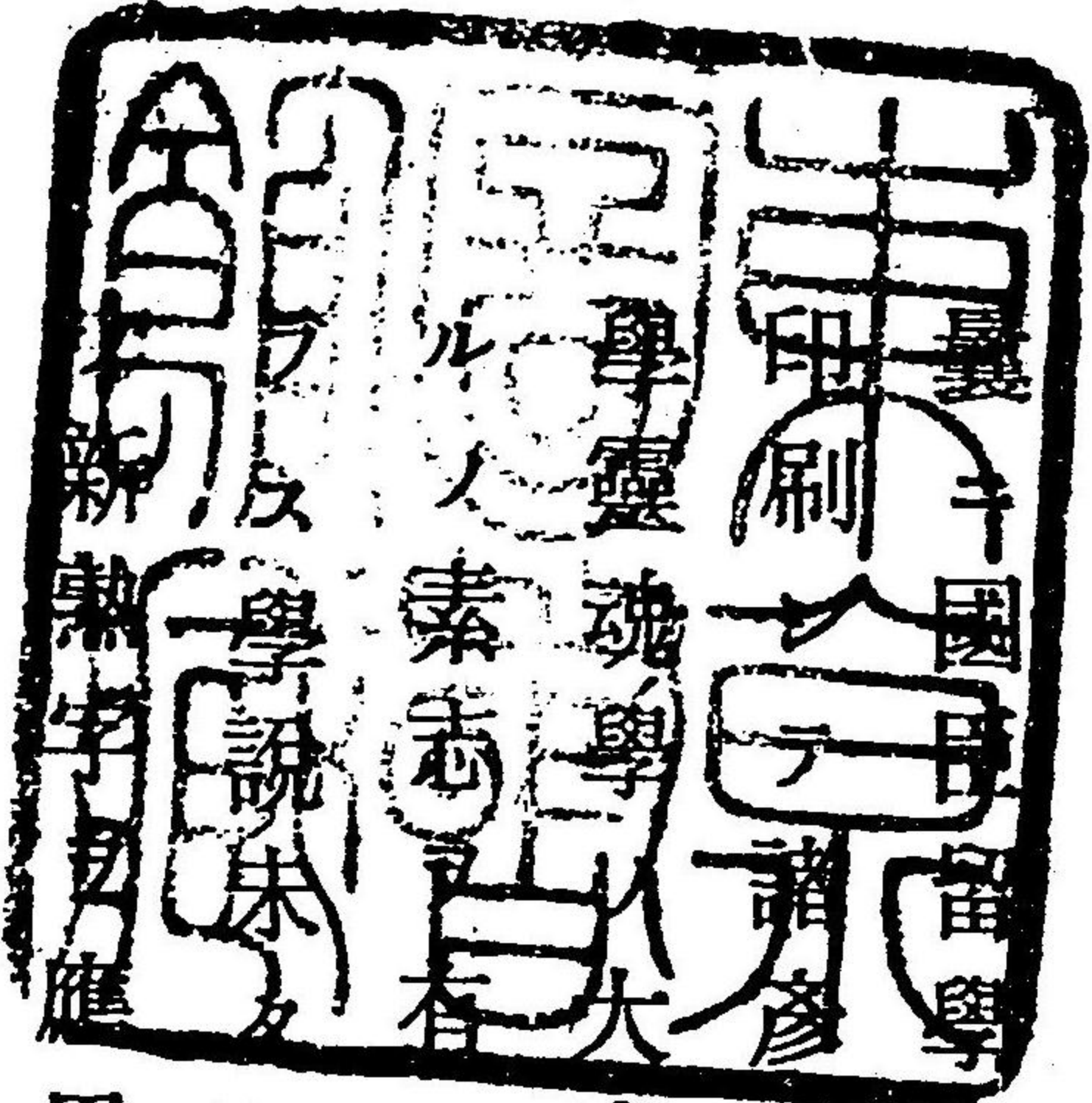
年五月東京ニ於テ

著者識ス



政畧學大意 附新法實施論

横田國臣 著



中法律哲學大意ヲ起草シ實弟四郎ヨリ之ヲ
高評ニ供シタルトアリ國臣ハ引續キ政畧
ノ大意ヲ起草シ更ニ諸彦ノ高評ヲ仰カント欲ス
ル者ナリ何トナレハ本邦ノ開明未タ久カ
深カラス維新以來天賦ノ人權天然ノ條理等
用シテ恰モ儒者ノ仁義道德ヲ説クト均ク世
人ハ之ヲ神裁ニ出タルモノ、如ク尊崇シ全國到ル處自由
自由トノ口實ヲ以テ充滿セラレタリ國臣モ亦自由ヲ愛ス

二
ルモノナリト雖其天賦ト謂ヒ天然ト謂フ所ノ天ナルモ
ノハ果シテ何者ナル乎ノ研究ニ頓着スルトナク衆人ノ腦
中單ニ西洋ノ流行物ナリトノ根據ノミヲ有スルハ恰モ腐
儒ノ腦中ニ聖人ノ遺言ナリトノ根據ヲ有スルト均ク其輕
信ノ妄想ハ之ヲ一笑ニ付スルモ可ナリト雖モ其妄想ノ結
果ハ吾輩ノ專修スル法律ノ原理ニ影響スルト僅少ナラス
是レ法律學者モ亦靈魂說ヲ研究スルトノ必要ヲ感スル所
以ナリ然レ其靈魂說ニ付テハ茲ニ之ヲ論スルノ時間ヲ有
セス直ニ政畧學ノ原理ニ論及ス可キナリ
國臣法律哲學大意ニ於テ法律哲學ナルモノハ政畧學ト非
常ナル關係ヲ有スルモノナルトヲ述ヘ又法律生出ノ原由
ハ從來ノ歴史ト現時ノ氣運トニ依ラサル可カラズ其歴史

ト氣運トヲ察スルハ實研者ノ職務ニシテ其歴史ト氣運ト
ニ付テノ關係ヲ論スルハ政略學ニ屬スルヲ以テ茲ニ贅セ
ストノ一語ヲ以テ過去現在ノ法律其者ノ如何ヲ論スルト
將來ノ法律制定ノ如何ヲ論スルトハ別段ノ問題タル可キ
トヲ暗示セリ
法律哲學大意ヲ一讀シタル者ハ必ス法律ノ原理ハ歴史的
ノ進歩ニ外ナラサルトヲ爭ハサル可シ然レ其單ニ歴史ノ
舊套及ヒ慣習ノ結果ノミニ一任スルハ歴史的ノ陳腐說ニ
シテ頑固黨ノ口實トスル所ニ過キサルナリ何トナレハ時
世ノ變遷ハ必スシモ進歩ノミニ非ス退歩スルトナキヲ期
ス可カラズ假令退歩スルトナキモ他ノ進歩ニ伴フト能ハ
サル片ハ比較的ノ退歩タルトヲ免カレス徒ニ其退歩ヲ見

テ是レ歴史ナリ慣習ナリト謂フカ如キハ未ダ歴史の學說ノ何者タルトヲ知ラサル者ナリ

近世ノ哲學者事物ノ原理ヲ説クニ必要ノ二字ヲ以テ之ヲ包括ス故ニ法律モ亦必要ヨリ生スルトノ一語ハ世人ノ流傳スル所ト爲リ普通ノ必要ナル熟語ト同視シ法律ヲ議スルニ當リ必ス必要ナキニ法律ヲ作ル可カラストカ必要ノ生シタル後法律ヲ作ル可シトカヲ論スルト屢ナリ其論旨ノ是非ハ茲ニ之ヲ辯スルトヲ要セスト雖モ哲學的ノ必要ナル熟語ヲ以テ有用ノ意義ニ用フル必要ナル普通用語ト混同シタルモノ、如シ法律モ亦哲學的ノ熟語ナル必要ヨリ生出スルモノナルトハ論ヲ待タスト雖モ法律中ニハ必スシモ良法ノミニ非ス惡法モ亦有用ナリトハ論シ難カル

可シ

哲學上法律ハ必要ヨリ生スルトハ法律ハ歷史上ヨリ生スルトノ解義ニ外ナラス其必要トハ因アリテ果ヲ生スルト謂フニ同シ良法モ惡法モ此解義ニ洩ル、トナカル可シ單ニ法律ノミナラス事々物々果アリテ因ナキモノハ非サルナリ

春花ノ雨ニ綻ヒ風ニ散ルモ歴史ナリ秋草ノ露ニ滋リ霜ニ枯ルモ歴史ナリ若シ人類ヲシテ風霜ノ下ニ暴露セシメハ一夜ニシテ草花ト同一ノ歴史ヲ目撃スルトヲ疑ハサルナリ然レ凡犬モ能ク棒ヲ避クルヲ知リ鳥モ砲聲ノ間ニ翔ラス况ンヤ優等ナル經研智識ヲ有スル人類ハ大厦高樓ニ夏ノ熱ヲ避ケ暖爐障壁ニ冬ノ寒ヲ防ク等決シテ草花ノ如ク

自然的ノ歴史ト同視ス可カラサルモ人アリ是ヲ新因ヲ以テ舊因ヲ壓倒スルノ法トス時機猶ホ早シト謂ヒ時機既ニ晚シト謂フモ新因ノ舊因ヲ壓倒スルニ不相當ナルニ外ナラサルナリ

西哲曰ク人若シ事々物々ノ原因關係ヲ充分ニ探認スルヲ得ル片ハ偶然及ヒ可成的ナル熟語ハ不用ニ屬スルニ至ル可シト蓋シ偶然及ヒ可成的ナル熟語ヲ用フルハ經研智識ノ不充分ナル者ニシテ智愚ノ程度ハ原因關係ヲ識認スルノ深淺ヲ以テ尺量スルヲ得ヘキナリ
 政略家ノ興義ハ單ニ新因ヲ製出シテ舊因ヲ壓倒スルニ在リ一言ニシテ之ヲ說示スルハ甚々容易ナリト雖モ其實行ノ困難ナルハ勿論ニシテ事物ノ大小難易ニ因リ僅ニ一日

ニシテ結果ヲ見ル可キモノアリ五年十年ニシテ結果ヲ見ル可キモノアリ五十年百年ニシテ猶ホ結果ヲ見ル可カラサルモノアリ故ニ頑固黨ハ歴史慣習ニ制セラレテ新因ヲ製出スルヲ知ラス急劇黨ハ歴史慣習ヲ顧スシテ新因ノ熟達ヲ待ツ能ハス兩者共ニ缺ル所アリ真正ノ政略家ナル者ハ因果ヲ運用スルニ最巧ナル者ニ外ナラサルナリ
 ホルチエンドルフ氏曰ク政略ナルモノ果シテ賭博ト同一ナル片ハ一箇ノ學科ト爲ス可カラスト雖モ決シテ然ル可キモノニ非ス云々予以爲ラク賭博ト雖モ原因ナクシテ結果ノ生ス可キモノニ非ス故ニ一概ニ論シ難シ若シ賭博ニ巧拙アリトスル片ハ必ス研究ノ材料タルトヲ得ヘキモノナリ

政略ニ付キ法律トノ關係及ヒ道德トノ關係等政略學ノ本文ヲ論スルハ他日ニ讓ルノミナラス本書ハ單ニ政略ノ如何ナル原理ノモノナルカヲ略述スルニ過キスシテ著者ノ本旨ハ直ニ新法實施ノ政略問題ニ論及スルニ在リ
 新法即チ民法商法ニ付キ三箇ノ主唱者アリ第一ハ新法斷行論者第二ハ新法延期論者第三ハ新法廢止論者是ナリ然レレ氏第三論者ハ時情ノ未タ動カス可カラサルトヲ知テ第二論者ニ同意シ修正ヲ名トシテ延期說ヲ贊成スルニ過キサルノミナラス其員數僅少ニシテ公然ナラサルニ因リ本書ニ於テハ單ニ斷行論者ト延期論者トニ付テ論述ス可シ斷行論者曰ク新法ハ法理ニ悖ラス慣習ニ適シタル完全無缺ノ良典ナリト延期論者曰ク新法ハ法理ニ悖リ慣習ニ適

セサル陳腐破壊ノ闕典ナリト其口實ハ種々ナリト雖レ共ニ絶對的ノ反論ニシテ斷行論者モ多クハ吾輩ノ平素親愛ナル學識アル高尚ノ士ナリ延期論者モ亦多クハ吾輩ノ平素親愛ナル學識アル高尚ノ士ナリ其相劣ラス相屈セサルハ勿論ナリト雖レ互ニ事情ヲ斟酌シテ罵詈輕蔑ノ醜體ヲ顯出スルニ至ラサルトハ吾輩ノ希望ニ堪ヘサル所ナリ
 吾輩ハ斷行延期共ニ利害得失アルトヲ信スル者ナリ唯其利害得失ノ度ヲ尺量シテ自說ヲ決スルニ過キサルナリ
 世豈ニ完全無缺ノ良典アラシヤ況ヤ民法商法ノ如キ大典ニ至テハ多少ノ缺點ナキヲ期ス可カラス斷行論者ノ說非ナリ然レレ兩三年ノ延期ハ此大典ヲ修正シテ其缺點ナキニ至ラシムルヲ得ヘキ乎愚考ニテハ決シテ然ラス修正ニ

隨テ缺點ヲ生シ異論百出更ニ延期ヲ爲サ、ル可カラズ修正ハ延期ト爲リ延期ハ又修正ト爲リ法典ノ完全無缺ノ期アル可キモノニ非サルナリ然則斷行論延期論共ニ貫徹セスシテ目下最モ少數ナル廢止論ノ實效ヲ生セシムルニ至ル可シ是レ吾輩ノ斷行論ニ左袒セサルトヲ得サル所以ナリ

延期論者曰ク新法ハ世論未タ協ハサルニ政府ハ斷然之ヲ發布セラレタリ云々ト若シ成文ノ法典果シテ有益ナリトスル片ハ吾輩ハ却テ國會開設前之ヲ發布シタルノ英斷ニ感服セサルヲ得ス蓋シ獨裁政治ハ美事ヲ爲ストモ容易ナリ隨テ弊事ヲ行フトモ亦容易ナリ維新以來版籍奉還地租改正等普通千百年ヲ待テ施行スヘキトヲ一瞬間ニ施行シ

タルハ枚擧スルニ暇アラズ就中五法發布ノ如キハ新造ノ立憲國ニ於テ容易ニ見ル可キトニ非ス試ニ現今本邦議院ノ情况ヲ見ヨ監獄費國庫支辨說ノ如キ學說上實務上共ニ適當ナルノミナラス其實減稅ニ異ナラサル一小案ト雖モ容易ニ議院ヲ通過セサルニ非スヤ然レモ是亦因ナクシテ此果アルモノニ非ラサルナリ

延期論者曰ク新法ハ個人主義ニ出タルモノニシテ國家主義ニ取レル欽定憲法ニ牴觸スト此一言ハ無學無經研ナル老朽生ヲ驚カスニ足ルノミニシテ此ノ如キ事例ヲ民法ニ徵セント欲スルハ思ハサルノ甚キモノト謂フ可シ吾輩モ亦國家主義ヲ取レル者ナリト雖モ實際個人ノ利益ハ國家ノ利益ニ讓ラサル可カラズト主張スルマテニシテ之ヲ再

言スレハ國體ノ繼續ヲ妨ケサル限リハ個人ノ自由ヲ許サ
 ントヲ希望スルモノナリ論者ト雖モ民法中人事編以外ニ
 於ケル個人間ノ賣買契約等ニ付テハ國家主義ノ賣買トカ
 個人主義ノ契約トカヲ區別スルノ必要ナカル可シ唯人事
 編ニ於テ本邦ハ二千五百年來獨裁政治ノ國體ナリ隨テ家
 政モ亦戸主ノ專制ナリ其專制權ヲ減殺スルハ國體ニ戾ル
 モノナリト論及スルニ至レリト雖モ我叡聖ナル 天皇陛
 下ハ夙ニ中興ノ大業ニ踞勉セラレ文明ノ事例ヲ照覽セラ
 レ憲法ヲ發布シテ我輩臣民ニ參政ノ大權ヲモ付與セラレ
 タルニ非スヤ我輩臣民ハ此意ヲ體シテ父夫ハ成ル可ク妻
 子ニ自由ヲ與ヘ戸主ハ成ル可ク家族ニ獨立ヲ勸メサル可
 カラス是レ國家ノ經濟其他發達ノ時情ニ適スルハ喋々ス

ルヲ要セサルノミナラス獨裁政體ヨリ立憲政體ニ移リタ
 ル沿革ニ伴フ可キ當然ノ結果ト謂ハサル可カラス然ルニ
 我輩臣民ハ憲法ノ特恩ニ浴シナカラ一家ノ整理ニ至テハ
 依然トシテ家長專制主義ヲ繼續セント欲スルカ如キハ却
 テ憲法ノ旨趣ニ牴觸スルモノト謂ハサル可カラサルナリ
 延期論者曰ク新法ハ天然法ノ原則ヲ主義トシ新學說ノ主
 義ニ背反スト是レ或ハ然ラン吾輩ハ天然法攻撃ノ首唱者
 ヲ以テ自ラ任スル者ナリ嘗テ法律哲學大意ニ於テ之ヲ說
 明セリ然レモ是唯學說問題ニシテ法典編纂者ノ學說ニ侵
 入スルハ立法上ノ本務ニ非ス立法者ハ唯法文ニ現出スル
 事項ノ可否ヲ判定スルニ止マラサル可カラス猶ホ行政上
 神佛ヲ信シテ惡事ヲ爲サ、ルモ孔孟耶蘇ヲ信シテ惡事ヲ

爲サ、ルモ又全ク信スル所ナクシテ惡事ヲ爲サ、ルモ刑罰ニ觸レサル以上ハ孰レモ均ク惡人視セサルカ如シ其信スル所ノ如何ヲ推究スルハ政略家ノ本務ニ非サルナリ吾輩ハ同僚ト共ニ商法民法ノ脩正說ヲ調査シタル者ナリ吾輩ハ絶對的ニ之ヲ非難スルモノニ非ス吾輩ト雖凡夥多ナル條項中一二ノ論ス可キモノナカラシヤ然レ凡右ヲ主張スル者アルトキハ亦左ヲ主張スル者アルハ人事ノ免カレサル所ナリ況ヤ此ノ如キ未曾有ノ大事業ナルヲ以テ學者モ成ル可ク解釋ヲ穩當ニシ法官モ成ル可ク適用ヲ圓活ニスル片ハ別段斷行ノ不都合ヲ見サルト疑ヲ容レサルナリ

本書ハ單ニ大体ニ就テ説明スルヲ主旨トシ些末ノ條項ニ

付テハ既ニ延期論者ト斷行論者トノ互ニ辯解スル所アルヲ以テ茲ニ贅言スルヲ要セサルノミナラス各論者ハ少ク宇内ノ大勢ト國情ノ將來トヲ觀察セサル可カラス維新後二十五年ノ光陰ハ通常ノ歴史ニ比較シテ數千百年ノ進歩ニ相當ス可キ時期ナルニ殆ト二十年來注入シタル新法實施ノ原因ヲシテ豫想ノ結果ヲ生セシムルニ至ラサルハ政略家ノ徒ニ看過スヘキ事ニ非サルナリ前年國臣留學中大隈伯ノ負傷ニ罹リ條約改正ノ談判中止ト爲リ新法ノ發布モ覺束ナク總テ國歩澁滯ノ風評アルニ際シ山田伯ニ往復シタル一書アリ左ニ掲載シテ所見ヲ吐露ス本朝政變ノ風潮ハ終ニ國臣ヲシテ本論ヲ艸セシムルニ至レリ曩ニ國臣書ヲ呈スルニ當リ常ニ老成ノ口實ヲ假用シ

テ曰ク實際ニ徵證セサル可カラス學說ヲ輕蔑ス可カラス云々其意ヲ推究スル片ハ新法ノ發布ハ輕忽ニス可カラス容易ニス可カラスト謂フニ外ナラスシテ恰モ新法發布ノ反對論者ニ似タルモノアリ蓋シ當時ノ政策ハ既ニ新法發布ノ方針ニ確定シタルモノト信シタルヲ以テ成ル可ク良好ノ結果ニ至ルヲ希望シタルニ過キス今日ハ既ニ然ラス豫想シタル法律ハ未タ一モ發布ニ至リタルモノナク進取ノ政策ハ世論ノ混雜ト共ニ亦混雜ヲ免カレサルモノ、如シ是レ國臣本論ヲ草スル所以ニシテ其說タルヤ或ハ本邦ノ實務家及ヒ學說家ノ論スル所ト非常ノ差異アルニ驚クモノアラシク唯閣下一讀ノ後ニシテ暴論タルノ評ヲ賜ハ、幸甚トス本論ハ之ヲ分テ數箇ノ問題トス第一本邦ノ國形

及ヒ人情第二本邦ノ法律慣習及ヒ現行法律ノ情態第三新法發布ヲ否トスル者ノ種類第四法律改正ノ方針第五新法發布ノ決定基礎是ナリ
 第一題本邦ノ國形及ヒ人情 本邦ノ國形ハ東隅ノ一孤島ニシテ之ニ近接スル各國ハ亞洲東南ノ未開國ナリ島地ナルニ因リ古代他國トノ交通甚々頻繁ナラス况ヤ近代ニ至ルマテ鎖港ヲ以テ一國ノ定論ト爲セリ近接ノ各國總テ未開國ナルニ因リ従前多少ノ交通アリタルニモ拘ハラヌ法律上ノ基礎トシテ著明ナルモノアルヲ見サルナリ支那朝鮮トノ交通ハ朝廷ノ儀式仁義忠孝ノ教育其他ノ文物多少見ル可キ者ナキニ非スト雖モ法律ニ至テハ民ヲシテ知らシム可カラサルノ主義ヲ固守貫徹シテ偶マ公法中幾分ノ

成規アルモノト雖モ亦官吏ノ專斷ト長者ノ全權トニ放任
シ私法ノ如キハ嘗テ見ル可キ者ナシト云フモ不可ナカル
可シ生理學上ニ於テ人類ノ容貌體格ハ概テ其父祖ノ遺傳
ニ依リ心理學上ニ於テ人類ノ賢愚能否ハ毫モ其父祖ノ遺
傳ニ非ストノ說ハ今日ノ公論タルニ似タリ是レ政略學上
ニ於テ最モ注意スル所ニシテ外部ノ發達ト内部ノ發達ト
共ニ之ヲ天然ニノミ放任ス可カラサルナリ人皆曰ク本邦
人ハ模擬ノ才ニ長シテ發明ノ才ニ乏シト是レ或ハ然ラン
然レ氏總テ學術ハ模擬ヨリシテ發明ニ至ルモノニシテ定
石ヲ知ラサル碁客ノ發明シタル名手アルトナク一流ヲ發
明シタル劍客ハ必ス其師ノ奧義ヲ極メタル者ナル可シ鐵
道電信ノ發明ハ究理ノ原則ヲ知ラサル野蠻國ニ起ルモノ

ニ非ス最モ本論ノ主眼トスル文明ノ法律ハ二千年前ヨリ
ノ羅馬其他ノ模擬物タルニ過キササルナリ國疆小ナレハ人
物多カラス交通狹ケレハ見聞少キハ自然ノ數ニシテ本邦
ハ古來之ヲ兼タル而已ナラス主トシテ本邦ノ文明ヲ誘導
シタル儒佛モ亦定命指示ノ道德主義ニシテ儒者曰ク聖人
ノ一言ハ天地ヲ貫キ古今ニ亘リ變ス可カラス動カス可カ
ラス之ニ反スル者ハ異端ナリ異教ナリ云々佛者曰ク佛ハ
唯我獨尊神通自在之ニ反スル者ハ邪宗ナリ邪法ナリ云々
儒佛ノ教統既ニ數千年ヲ經過シ千萬人ノ學說ニ依テ維持
セラレ億兆ノ衆民ニ依テ信崇セラレ苟モ之ニ反スル者ハ
異端異教邪宗邪法ノ公認ヲ受ケ單ニ社會ノ排斥ノミナラ
ス刑罰ヲ免カレサルニ至ル者アリ又政事上ノ沿革ヲ回想

スルニ中古政權ノ武門ニ屬スルニ至リ干戈繼續武人ト愚民トノ關係ノミニシテ文事ハ單ニ僧侶ノ翫具タルニ止リ徳川氏ノ治世ト雖モ民ヲ愚ニスルノ筆法ハ常ニ俗吏ノ重要ナル術策ニシテ異論奇說ハ既ニ慣習刑法ノ罰例タリト謂フモ可ナリ本邦ノ邊小ナルヤ斯ノ如ク外交ナキヤ斯ノ如ク教風タルヤ斯ノ如ク政治タルヤ斯ノ如クニシテ日本人ハ發明ノ性質ニ乏シトスルハ少ク嚴酷ナル評タルヲ免カレス況ヤ斯ノ如キ時代ニシテ猶ホ高僧大儒各獨立一派ヲ設立シタル者ニ乏シカラス且其教ノ善惡ニ拘ハラズ忠孝節義ノ日本固有質ヲ保助シ武人志士ノ間ニ一種特色ノ氣風ヲ養成シ人心集合ノ巢窟ナル帝室ノ威光ニ映射セラレ萬世不易ノ國體ヲ醸出シ世官世祿ノ政習ニシテ何ソ久

ク天下ノ英氣發達ヲ壓伏スル丁ヲ得ンヤ或ハ勤王攘夷ノ論說ト爲リ或ハ干戈牢獄ノ犧牲ト爲リ終ニ王政維新ノ大業ヲ起スニ至レリ維新前後自然ノ勢變ヨリシテ西洋各國トノ交際漸次頻繁ニ至リ事々物々彼巧ニ我拙ク彼優リ我劣ルノ感想ヨリシテ我ヲ忘レテ彼ヲ學ヒ我ヲ捨テ、彼ヲ取ルニ至レリ故ニ現時古老ノ洋學者ト雖モ一學科ヲモ專修シタリト謂フニ足ル者ナク少年生徒ノ纔ニ學士タリ留學生タリトテ朝野ニ傲然タルハ實ニ慙笑ニ堪ヘサル丁ナリト雖モ之ヲ以テ本邦人ハ模擬ノ才ノミニシテ發明ノ才ニ乏シトスルハ亦少ク嚴酷ナル評タルヲ免カレサルナリ維新前ノ洋學者ハ其研究ノ困難ニ至テハ實ニ想像ニ上ラサル者アル可シ其學術ノ淺深ヲ論スルヲ要セス維新後僅

ニ廿余年人生年齢ノ一部トシテハ久カラサルニ非スト雖
 モ一國新造學術ノ年限トシテハ最モ短少ト謂フ可キナリ
 然ルニ其文明進歩ノ過度ナルハ古今各國其例ナカル可シ
 抑モ本邦ノ國形上前代外國ト交通ノ不便タル海洋ハ今日
 ノ至便トナリ前代他國ニ關係ナキ東隅ノ一孤島ハ今日歐
 米間ノ航路ニ當リ亞洲海岸ノ諸國ヲ扼シ本邦ノ人情ハ古
 來ノ政事教育ノ羈馭ヲ脱シ駸々トシテ止ルヲ知ラス條約
 改正論ハ今回偶然ノ中止ニ拘ハラズ直ニ再燃ス可キハ言
 ヲ待タズ嗚呼大日本帝國ハ武略政略商略等ヨリ觀察シテ
 法律ハ如何ナル結果ニ至ラシムルヲ得策トスル乎後題ト
 共ニ之ヲ熟思セサル可カラズ

第二題本邦ノ法律慣習及ヒ現行法律ノ情態

本邦ノ上古ハ之ヲ不問ニ置キ中古ヨリシテ德川氏ノ末ニ
 至ルマテ民ヲシテ知ラシム可カラサルノ主義ハ依然トシ
 テ變更スル丁ナク時ニ内規内定ノ如キモノナキニ非スト
 雖モ未タ全國一定ノ成法トシテ見ル可キモノアルヲ知ラ
 ス德川氏ノ百箇條其他裁判例ノ如キ之ヲ今日ノ成文法ト
 全視ス可カラズ人必スシモ此說ヲ非トセサル可シ然則慣
 習法ハ如何トノ問ニ對シ國臣ハ斷然今日ニ於テ本邦ニ慣
 習法トシテ確言スルニ足ルモノナシト答フルノ外ナシ此
 一言ハ今日法律ノ實際家ト自稱シ學者ト自任スル者モ亦
 一驚スルナラン此輩ノ誤解ニ付テハ第三題ニ譲リ茲ヨリ
 本邦ニ於テ現今慣習法トシテ確言スルニ足ルモノナキ所
 以ヲ辨ス可シ獨逸國法ノ學說ニ依ルニ獨國ニ於テ國法行

政法ノ法律學科ト爲リタルハ行政裁判所ノ設立ヨリ始マ
 ル何トナレハ其設立以前ニ於テハ今日國法行政法ノ區域
 ニ屬スル事件ハ國君又ハ官吏ノ專斷ニ屬シタルヲ以テ之
 ヲ法律視ス可カラス行政裁判所ノ設立アリテヨリ始テ之
 ヲ法律ニ照シテ裁判スルモノト爲レリ云々然レ臣國臣ハ
 此語ヲ引用シテ本邦ハ元來長上專斷主義ノ國風ナリ確乎
 タル法律ト認ム可キモノナシトノ論理上ヨリ事實ヲ抹殺
 セント欲スル者ニ非ス專斷主義ト雖モ徒ニ空ニ向テ發砲
 スルカ如キモノニ非ス又時ニ名君賢吏アリ必ス幾分ノ的
 度ヲ生スルハ當然ナリ國臣本邦ニ於テ今日慣習法トシテ
 確言ス可キモノナシトスルハ第一中世ヨリ土豪割據就中
 徳川封建ノ世ニ當リ通俗三百諸侯ト稱シ加之旗下アリ分

地分領アリ本邦ハ殆ト數百ノ各小國ヨリ成立タルモノト
 異ナラス且一般ノ法律制度ハ總テ各聯邦ノ主權ニ屬シタ
 ルヲ以テ其例規又ハ裁判事例ノ如キモ亦紛亂錯雜單ニ舊
 江戸ノ舊例ハ全國ニ適施ス可キモノニ非ス第二當時法律
 學者アリタルニ非ス法律ハ勿論裁判ニ關シタル書類ト雖
 モ完全ナルモノアルニ非ス官衙ノ處分モ區々タリシヲ以
 テ偶々老年ノ舊役人アルモ之ヲ辨スル能ハス固ヨリスノ
 如クナルヲ以テ其他ノ人民モ亦某ハ斯ノ如キ處分ヲ受ケ
 タリ某ハ云々ト纔ニ記臆スル者モ稀ナルトニシテ慣習ノ
 名義ヲ付スルニ足ルモノナク到底調査類集ノ道ナカル可
 シ國臣幼時民間ニ生長シ民政官吏ニ接近シ農商ノ情態小
 民ノ辛苦貧困救助租稅徵收等之ヲ目撃シタルトアリ聊カ

之ヲ辨スルモ敢テ難シトセサルナリ然レモ今日民法又ハ
 商法中ニ編入ス可キ慣例アリシヤ否ヲ回想スルニ最モ世
 人ノ喋々スル財産相續婚姻等ノ人事ト雖モ殆ト父權夫權
 等長上權ニ委スルモノニシテ毫モ確定シタル條規トシテ
 見ル可キハ甚々稀ナリ其他單一一笑ニ付ス可キモノ而已
 ニシテ慣例トシテ毫モ記臆ニ存スルモノナシ其記臆ニ存
 セサルハ國臣ノ無學無識ト謂フノ外ナシト雖モ他人モ亦
 或ハ然ラン若シ果シテ一般人民ノ記臆ニモ存セサルモノ
 ナル片ハ慣習ニ非サルナリ第三王政維新後務メテ舊規古
 例ヲ一掃シ老官俗吏ヲ排斥シ昨日ノ漢學生今日ノ洋學生
 明日ハ共ニ高官長吏ト爲リ唯條理便利ヲ根據トシテ法律
 規則ヨリシテ政務裁判等ニ至ルマテ朝變暮改ノ評亦空シ

カラス既ニ廿餘年ノ久キヲ經タリ故ニ現行法律ノ情態ハ
 如何ナルモノ乎ヲ分拆スル片ハ布令訓令指令ハ外國法律
 就中佛國法律ノ原則ニ基カサルハ殆ト稀ナリ法律顧問ハ
 外國人就中佛人ニ非サルハ殆ト稀ナリ實際執務ノ法官ハ
 舊弊一掃ニ從事シタル書生ニシテ偶然實際ノ必要ヨリ法
 務ニ充ル所ノ現今ノ所謂老成官吏及ヒ司法省ニ於テ數回
 募集養成シタル佛國法律研究生徒ニシテ將來ノ望ヲ屬ス
 可キ現今ノ所謂壯年官吏其他或ハ好機ヲ以テ採用セラレ
 或ハ他ノ學校ヨリ拔擢セラレ或ハ試験ニ依リ及第シタル
 者等アリト雖モ此二種ノ官吏ト全種類ノモノタルニ外ナ
 ラス斯ノ如キ現行法律ノ狀態ナルニ依リ外國法律就中佛
 國法律コソ日本現行慣習法ナラメ否殆ト本邦現行成文法

ノ位置ヲ占ムルニ至レリ然レモ今日實際ニ於テ新法ハ發布ス可カラズ慣例ハ保存セサル可カラズト主張スル者アリ其慣例ト認ムルモノハ何ソヤ後題ニ於テ之ヲ辯ス可シ第三題新法發布ヲ非トスル者ノ種類 新法ヲ非トスル者ヲ三種類ニ區別スルヲ得ヘシ第一實務ニ當ル法官第二法律學研究生第三一般法學ヲ脩メサル者はナリ第三者ハ殆ト全國ノ大部ヲ占ム西洋各國モ亦然リ猶ホ新婚前ノ處女ノ如ク徒ニ人生ノ必要タルヲ知テ未タ其甘辛ヲ知ラス其躊躇スルモ亦宜ナリ唯詳説セサル可カラサル者ハ第一者ト第二者トニ過キス抑モ他人ノ心事ニ侵入シテ事ヲ論スルハ少シク堂々タルニ乏シト雖モ政略學上已ヲ得サルノ論點トシテ推究セサルヲ得ス固ヨリ一人一個ニ就テ論

スルニ非ス唯茲ニ摘發セント欲スルハ何人ト雖モ自個ノ利益ノ主點ニ向テ多少偏倚スルヲ免カレス是レ一般人情ノ常トシテ宥恕ス可シト雖モ之ヲ觀察セサルヘカラス第一者就中老成法官ハ法學ヲ修メテ實地ニ就キタル者ニ非スト雖モ數年ノ經研ニ於テ此事實ハ斯ノ如ク處分シ彼事件ハ斯ノ如ク判決ス可シト成法ナキニ乘シテ自ラ立法官ノ位置ニ立チ腦中多少ノ法例ヲ編纂シ之ヲ實際ニ適用ス故ニ其認メテ慣習法ト爲スハ眞實其地方ニ傳來シタル慣習ヨリモ自ラ編纂シタル腦中ノ法例コソ夥多ナル可ケレ若シ大岡時代ナランニハ此方法ヲ以テ法官ノ適任トスルモ妨ナシト雖モ人民ヲシテ裁判ニ先ツテ是非曲直ヲ豫知セシムルヲ勉ムル今日ニ於テハ各法官ノ各立法ヲ排却

セサル可カラス又老成法官ハ多年地方ノ人民ニ接シ其識能ノ程度ト新法ノ程度ト一致セサルヲ感想スルト少カラサル可シ是レ至當ノ懸念ニシテ立法官ノ最モ注意ス可キ所ナリト雖モ後題ニ於テ之ヲ辯ス可シ第二者就中外國法律研究生ハ官ニ在ルト野ニ在ルトニ拘ハラズ概テ現今ノ壯少ニシテ固ヨリ本邦慣習法ノ如何ヲ研究シタル者ニ非ス固ヨリ未タ實際ニ熟練シタル者モ稀ナル可シ唯外國ニ於テ慣習ヲ持續シ猥ニ法律ヲ改正セサルトテ以テ根據トスルニ過キス此點ニ付テハ世人ノ詳知スル所ナルヲ以テ更ニ贅セス若シ今日新法ヲ發布スルニ至ラハ老成法官ハ幾分ノ老練ヲ失ヒ新任法官ノ論說ニ讓ル如キトモアリテ到底從前ノ活潑ヲ制限セラル、ニ至ル可シ又外國法律研究

生モ徒ニ外國法律ノ引證ノミニテハ實際上ハ勿論學說上ト雖モ困難ナシトス可カラス大學ノ法律教科ト雖モ必ス一變スルニ至ル可シ左ナキ片ハ支那人ニ向テ洋服ヲ強賣セントスルカ如キ觀相ヲ顯出ス可キナリ蓋シ第一者第二者共ニ幾分ノ不快ヲ感スルトアルモ本邦法律ノ位置ヲ占ムル者ハ現今將來此等ノ者ニ外ナラス一時ノ困難ハ進歩ノ兆候トシテ忍耐スルト希望ニ堪ヘサルナリ國臣ト雖モ外國ニ在テ幾分外國ノ法律ヲ研究シタル片ハ從前ノ如ク外國ハ云々ナリトシテ附會ノ說ヲ吐キ歲月ヲ經過スルハ實ニ氣樂ノ至ナリ然レモ其氣樂ハ本邦法律ノ進歩セサル所以ニシテ少シク遠慮セサル可カラサルナリ

第四題法律制定ノ方針 國臣十餘年來本邦老法官ノ法談

ヲ聽ク皆曰ク慣習ニ根據セサル可カラス事ニ先ツテ法ヲ設ク可カラスト既ニ幾回國臣ノ耳朶ニ觸レタルヤヲ知ラス外國ニ於テ有名ナル學者ノ說モ亦大同小異ニシテ偶々本邦新法草案ヲ評スルニ當リ本邦ノ進歩ヲ稱賛シ而テ其新法草案ヲ歐洲法律ノ譯本ナリトシテ非難スル者アルヲ免カレス國臣是等ノ者ノ言フ所ヲ信セサルニ非ス實ニ本邦ノ新法ニ於テハ本邦ノ慣習法ヨリ生出シタリト認ム可キモノ稀ニシテ總テ歐風ノ原則ニ依ラサルモノナシト謂フ可キナリ歐洲法律ノ譯本ナリ寫本ナリト謂フモ亦可ナリ然レ臣國臣ハ其說ノ取ル可キトアルニモ拘ハラズ今日本邦ノ國情ニ於テハ之ヲ採用スルニ足ラサルヲ信ス是レ必ス衆人ノ一驚スル所ナラン蓋シ一國文明ノ

進歩ハ常ニ徐々タルモノニシテ決シテ急進過激ヲ以テ即成スルモノニ非ス佛國革命アリタリトテ其人民ハ革命前ノ人民ニシテ其事物モ亦革命前ノ事物ナル可シ而テ革命ノ爲メ破壊シタル社會ノ秩序其他ノ事物ハ容易ニ回復ス可カラズ總テ歐洲近來ノ文明ハ歷史上徐々トシテ進歩シタルモノナリ然ルニ本邦ノ文明ハ歐洲ノ文明ヲ追歩スルモノト雖モ頗ル事情ノ異ナルモノアリ幕府三百年間ノ封建政治ハ世祿世官ニシテ頗ル非難ス可キ者ナキニ非スト雖モ幾十萬ノ士族ハ其本職タル武ヲ用フルニ所ナク游民必スシモ無事ヲ以テ快トスル者ニ非ス其學フ所ノ文武其守ル所ノ節義ハ恰モ西洋ノ文明ヲ取受スルノ資格ト爲リ王政復古シテ民心ノ歸スル所ヲ知ラシメ天下靡然トシテ

文明ノ方針ニ傾向シ而テ百事ノ改革ハ空想ヨリシテ生出スルニ非スシテ多年西洋各國ノ實地ニ經歷スル所ノモノナリ譬ハ氣車電信等ヲ發明スルハ容易ノ事業ニ非ス必ス徐々タル氣運ニ依ルモノナリ然レモ既ニ發明シタル氣車電信ヲ使用スルハ必スシモ徐々タルヲ要セサルナリ若シ本邦ノ文明ト歐洲ノ文明ト同等ノ位置ニ在ル片ハ假令幾回ノ改革ヲ行フトモ決シテ急速ナル進歩ヲ見ル可キモノニ非ス前ニ述ヘタル老法官等ノ説ハ法律完全ノ後ニ於テハ至當ナリ文明ノ事物具備シタル後ニ於テハ必ス然セサルヲ得ス本邦ノ如キ慣習法ト認ムルニ足ルモノナク且今日ニ生出セサル事項ト雖モ必ス明日ニ發生ス可キ事項又ハ發生セシムルヲ要スル事項ハ之ヲ豫定セサル可カラサ

ルハ近時ノ事例ニ徴シテ判然タリ又外國學者ニシテ西洋文明進歩ノ沿革ノミヲ視テ尺度トスルハ不注意ナリ不研究ナリ其稱贊スル本邦ノ進歩ハ西洋ノ文物ヲ輸入シタル爲メニ非スヤ本邦新法ノ歐洲法律ノ譯本又ハ寫本タルハ其輸入ノ方法ニ非スヤ况ヤ其文明ト稱スル各國ノ法律ハ元來羅馬法其他ノ譯本又ハ寫本ニ非スヤ否獨逸國其他ニ於テ今日猶ホ羅馬法ノ原本ヲ施行スルニ非スヤ既ニ本邦ニ於テ文明ノ方針ニ傾向シタル以上ハ假令舊時ノ慣例猶ホ存スルアルモ今日文明ノ程度ト適合セス到底其完全ニ至ルヲ待ツ可カラス又本邦人民進取ノ氣象ハ決シテ之ヲ待ツ不能ハサルナリ若シ國臣ノ言フ所ヲ信セスンハ試ニ本邦老法官又ハ其他ノ者ヲシテ假令一地方ノ慣習法タリ

トモ其完全ナルモノヲ編纂シ是則某地方ニ施行セラル、法律ノ情態ナルトヲ明言セシムルトヲ得ヘキ乎國臣決シテ之ヲ信スルト能ハサルナリ本邦ニ成文法ナキヲ以テ英國ト比較スル如キハ迂濶ノ極ト謂フ可シ猶ホ終リニ一言スヘキハ歐洲各國ニ於テ文明ノ進歩ニ從ヒ慣習法ノ減却スルハ實際ト學說ト共ニ信認スル所ナリ何トナレハ一事ヲ獎勵シ一事ヲ命令シ一事ヲ禁止スルニ當リ自然慣習ノ生スルヲ待ツ如キハ今日文明ノ活動ニ適セサルナリ是故ニ本邦法律創定ノ方針ニ付テハ國民進歩ノ程度ヲ計リ幾分事ニ先ツテ誘導スルトニ傾向セサルヲ得ス國民ノ進歩ハ猶ホ流動物ノ水平ヲ求ムル如ク到底西洋ノ文明ト平均ヲ得サル間ハ急激ナル可シ法律モ亦西洋ノ法律ト權衡ヲ

得サル間ハ到底完全ヲ期スル能ハサル可シ從來法律ノ朝令暮改ハ必スシモ當局者ノ罪ニ非スシテ法律進歩ノ速力ナリ

第五題新法發布ノ決定基礎 本題ヲ論スルニ當リ先ツ間接ナル關係ヲ有スル本邦政體ノ如何ヲ辨セサルヲ得ス抑モ本邦ハ立憲政體ナリト雖モ現今本邦ニ於テ汎稱スル責任内閣即チ政黨内閣ナル乎非責任内閣即チ非政黨内閣ナル乎ハ世論ノ喋々スル所ナリ政黨内閣ハ英國其他ニ於テ既ニ多年ノ經研ニ依リ其順序方法殆ト確定シタルモノトス唯其弊トスル所ハ内閣ノ交迭時ナラサルヲ以テ國民ハ政熱ノ爲メ狂奔シ偏頗軋轢常ニ騷擾ノ景狀アルヲ免カレサル而已ナラス國是ハ一定ノ方針ニ向テ穎進スル能ハス

文明及ヒ慣習其程度ニ達セサル片ハ非常ノ危険ニ陥ル丁
 ナシトセス就中本邦ノ如キ封建ノ餘情未タ全ク消滅セス
 議院ノ制度猶ホ未タ完全ナラス地ニ屬スルノ政黨ト人ニ
 屬スルノ政黨トノミナルヲ以テ黨派ノ分裂收拾ス可カラ
 ス恰モ百鬼夜行ノ怪狀ヲ見ルニ至ル可シ又非政黨内閣ハ
 近時獨國ノ口實トスル所ナリト雖モ學說上及ヒ實際上未
 タ確定ノ永續基礎ヲ表出スル丁能ハス獨國ハ名君續出シ
 當百年代ノ名相三帝ニ經仕シ國民ハ淳朴ニシテ忠順ナリ
 國臣ノ最モ驚キタルハ老幼貴賤ニ拘ハラズ其政談スル所
 ヲ聽ク片ハ政府黨ニ非サル者殆ト稀ナリ假令反對黨ト雖
 モ彼侯ヲ除テ他ニ良相ヲ撰フノ念ナキモノ、如シ其一證
 トス可キハ「フリードリッヒ」先帝ハ自由主義ニシテ彼侯ノ

主義ト反對スルヲ以テ世人ハ先帝即位後ノ政體ニ注目シ
 タルニ豈ニ計ランヤ反對黨ノ新聞ニ至ルマテ彼侯ヲ保助
 シ益ス位置ヲ固クスルニ至レリスノ如キ國情ナル片ハ假
 令内閣ノ如何ナル名義ノモノタリモ國是ヲ繼續スルニ毫
 モ困難ナカル可シ然レモ其實際ヲ觀察スル片ハ數多ノ政
 黨中自カラ政府黨ト非政府黨トアリ現今政略學ニ有名ナ
 ル伯林大學教授「トライチケ―」氏ノ如キモ政府ニ於テ他黨
 ノ人ヲモ採用ス可シトハ現今政府ニ希望スル三條件中ノ
 一ナリ抑モ政府ナルモノハ徒ニ名義ノミヲ以テ永續ス可
 キモノニ非ス必ス之ニ伴フ可キ有形無形ノ勢力ナカル可
 カラス假令海陸軍警察等ノ有形力ハ政府ノ手ニ屬スルモ
 無形力ナキ片ハ一般國民ヲ制服スル能ハス况ヤ是等ノ有

形力ハ何時ニテモ鋒ヲ逆ニスルノ例ナカラシヤ然則本邦ニ於テ政府政黨外ニ立ント欲スル片ハ如何ナル方法ニ依リ無形力ヲ維持ス可キ乎ヲ推究セサル可カラス本邦ニ於テモ亦獨國ノ如ク名君賢相ノ威望ニ依リ無形力ヲ維持ス可キ乎我萬世一系ノ帝位ハ固ヨリ萬世ノ無形力ナルハ言ヲ待タスト雖モ常ニ帝室ノ威望ニノミ依賴シ宸襟ヲ惱スハ臣子ノ分トシテ忍フ能ハサル所ナリ又賢相ナル者ハ徒ニ學識才智ノミヲ以テ直ニ其位置ニ適スル者ニ非ス然則政黨外ニ於テ如何ナル種類ノ人物ヲシテ將來其位置ニ立タシム可キ乎實ニ重要ナル問題ナル可シ現今本邦ニ於テハ薩長ノ有形無形ノ勢力ニ依リ政府ヲ維持スルモノナリ藩閥政府ノ名實共ニ空シカラス國臣ハ決シテ藩閥政府ヲ

好マス何トナレハ藩閥政府ハ所謂地ニ屬スルノ政黨ニシテ政略學上最モ嫌忌ス可キ危険ノ政黨ナリ若シ該政黨ニシテ勢力微弱ナル片ハ獨國ニ於ケル「ポーランド」黨英國ニ於ケル「アイラント」黨ノ如ク僅ニ自國ノ獨立ヲ謀ル等ニ過キスト雖モ其勢力盛大ナル片ハ南北「アメリカ」黨ノ如キ大波瀾ヲ生スルニ至ル可シ故ニ名義ノ如何ニ拘ハラヌ將來本邦ニ於テ薩長黨ト名狀ス可キ政黨ヲ現出スルアラハ全國舉テ之ニ抵抗スルニ至ル可シ然レモ國臣ハ藩閥黨ノ名義ヲ嫌忌スルニモ拘ハラヌ一時藩閥政府ヲシテ持續セシメサルヲ得サルモノアリ何トナレハ前ニ述ヘタル如ク政府ナルモツハ必ス有形無形ノ勢力ヲ有セサル可カラス而テ之ヲ有スルモノハ藩閥黨ニ外ナラス若シ現今藩閥黨ヲ

キ片ハ全國四分五裂シテ言フ可カラサルノ慘狀ヲ生出スルハ必然ナリ是レ國臣ノ大ニ憂ル所ニシテ他人ノ藩閥政府ヲ嫌忌スルト少シク異ル所ナリト雖モ藩閥政府ハ到底永續セシム可カラス又永續セシメント欲スルモ能ハサルモノナリ蓋シ識ラス知ラス漸次其結果ニ至ラシムルハ治安ノ良策ニシテ其經歷中輿論ノ方針自カラ歸スル所アリテ一種ノ政體ヲ定ムルニ至ル可シ其間ニ於テ薩長ハ薩長ヲ以テ薩長ニ讓ラス薩長ハ薩長ヲ以テ天下ニ讓ルノ實ヲ表スルニ至ラシメサル可カラス若シ非政黨內閣ヲ組織セント欲シテ直ニ獨國ノ口實ノミニ倣フ片ハ國情ノ差異ヨリシテ大ナル齟齬ヲ生スルニ至ル可シ獨國ハ非政黨內閣ノ名義ニシテ其實ハ政黨內閣ノ一種ナリ其一證トシテ徵

ス可キハ獨國今帝或ル人ニ語テ曰ク獨國ノ政黨ハ二種アルヲ要スル而已朕ニ從順スルモノト朕ニ反對スルモノト是ナリ云々之ヲ再說スル片ハ帝室黨ト帝室反對黨ト謂フニ異ナラス然則單ニ內閣ノミナラス帝室ヨリシテ一方ノ黨派タルノ實跡ヲ顯ハスモノトス故ニ帝室黨ノ勢力微弱ナル片ハ必ス一變革ヲ免カレス國臣一兩年以來學說上實際上非政黨內閣ノ永續策ヲ探求スト雖モ未タ確定ノ原則ヲ發見スル能ハス蓋シ本邦ノ國情ヲ觀察スルニ政黨內閣ノ政體ハ目下ニ於テ實ニ危險ナリ非政黨內閣ノ政體ハ人ニ依テ永續スルモノニシテ理ニ於テ永續スルモノニ非ス故ニ現今ノ政府ハ將來ノ政府ニ向テ危險ヲ豫防シ善例ヲ相續セシメサル可カラス議院開設前ノ內閣ハ開設後ノ內

閣ニ付テノ充分ナル準備ヲ爲サ、ル可カラス新法發布ノ如キハ其準備中ノ最モ緊要ノモノタル可シ良案ト雖モ時機ニ投セサル片ハ施行容易ナラストハ「グナイスト」氏ノ屢々其考案ノ採用セラレタルニ付テノ自負ノ語ナリ世人或ハ曰ク新法ノ發布ハ條約改正ニ牽連ス云々或ハ曰ク全ク牽連セス云々是レ共ニ非ナリ新法ノ發布ハ毫モ條約改正ニ牽連セス然レモ條約改正ハ必ス之ニ牽連セサルヘカラス條約改正ハ單ニ國ト國トハ全等ナリ全權ナリト謂フ如キ單純ナル理論ノミヲ以テ遂得ヘキトニ非ス假令遂得ルトモ遂得ルノ困難ヨリモ遂得タル後ノ困難ハ一層甚シカル可シ土留古政府ノ屢々内政改革ヲ約シテ約ノ如クナラサルハ各國ノ輕蔑ヲ免カレサル所以ナリ今也新法發布ノ

時機ニ際シ種々ナル事情ニ妨碍セラレ遷延ノ傾向アルハ已ムヲ得サルニ出ルモノナル可シト雖モ新法ノ發布ハ些末ノ條項ニ拘泥シテ遷延ス可キ時機ニアラス單ニ一國將來ノ利益ト不利益トヲ比較シテ其多少ニ從ヒ決定ス可キ瞬間ニ接近セリ固ヨリ利益ナルノミナラス必要ナルトハ既ニ各問題中ニ於テ判然タルヲ以テ再陳スルヲ要セサル可シ然レモ如何ナル法律ト雖モ百事利益ノミナリトハ期シ難シ况ヤ古今未曾有ノ大法典ナルヲ以テ其發布後ノ世論ハ發布前ノ世論ヨリモ喧ク發布後ノ閣下ノ困難ハ發布前ノ困難ヨリモ大ナルトハ固ヨリ之ヲ覺悟セサル可カラス其前後ノ繁雜ハ憲法編制條約改正ノ如キ簡單ナルモノニ非ス其名譽ト不名譽トハ閣下之ヲ負擔セサル可カラ

サルナリ謹言

四十六

明治廿三年一月在伯林府

横田國臣

山田伯閣下

政略學大意終

明治廿五年五月廿三日印刷并出版

(禁賣買)

著作兼
發行者

横田國臣

東京市麹町區富士見
町五丁目二十番地

印刷者

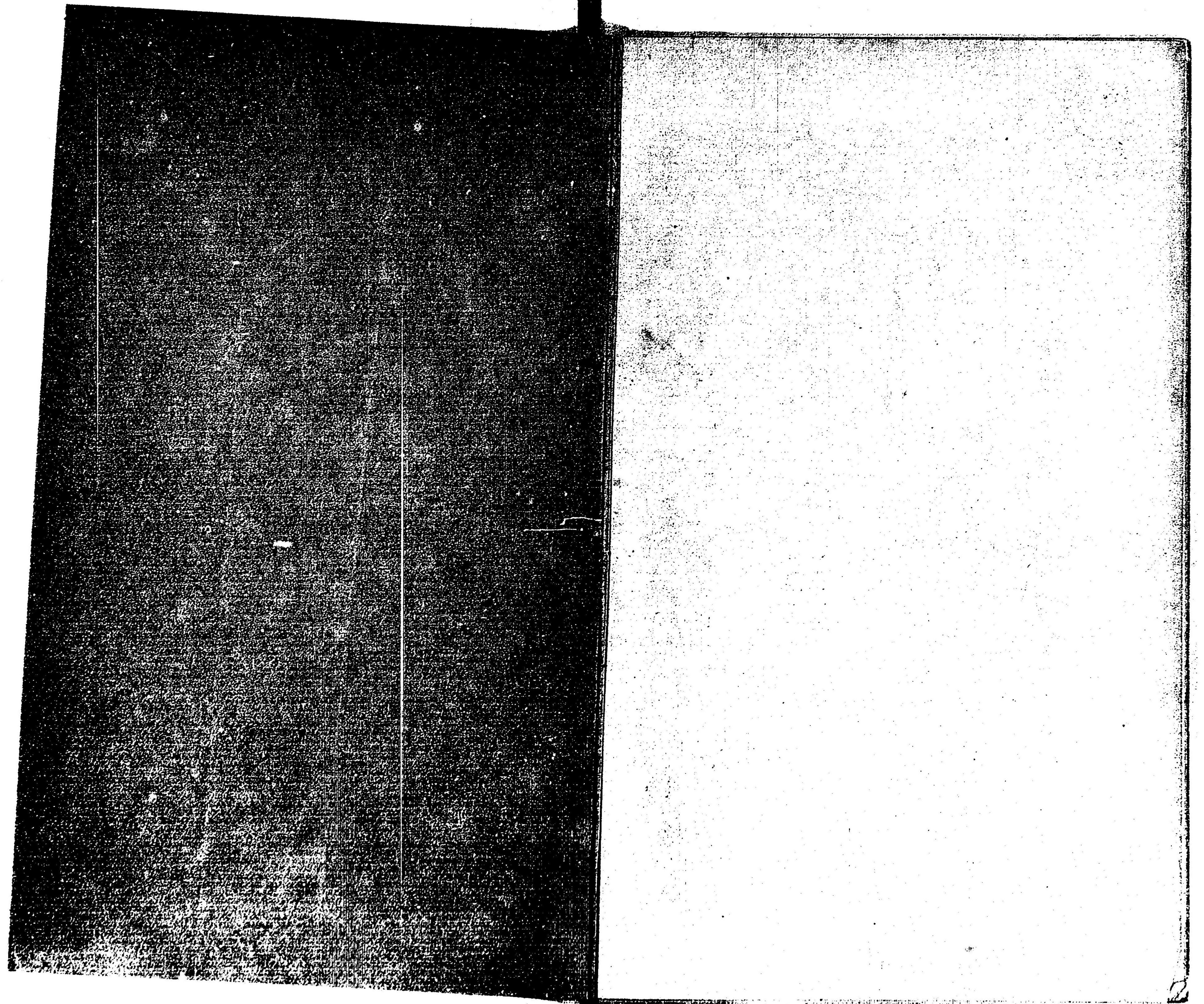
長尾景彌

東京市芝區西久保葺
手町一番地

印行所

京橋區銀座四丁目

博聞社



14
8

